

一般社団法人 日本ヘルスケア歯科学会

社員総会（第6期第3回 オピニオンメンバー会議）

日程；3月6日（日） 午前10時00分より12時30分

会場；パシフィコ横浜会議センター419 および Zoom meeting

（会場参加とオンライン参加のハイブリッド形式で開催）

■ 本会議で、決定したことおよび宿題となったこと

\*今回議案以外にとくにありませんが、当日の質問と回答の中からいくつか別掲しておきます。

1. ウィステリアは、ファイルメーカーのバージョンアップの度に、それに対応したバージョンアップが必要だ。新しく構築するには負担も大きい。ウィステリアに代わるものを考えられないか。（加藤 徹）
2. 今年度の決算では、大きな欠損が出ている。昨年の会議で「10年で約2000万円（正味財産が減っているが）大丈夫なのか」と尋ねたとき、「オンラインを使いながら効率的にやっていくので大丈夫」という回答だったが、そうっていない。長期的な展望に立って持続可能な学会運営を考えて欲しい。（河野正清・監事）
3. プロジェクト及びフォーラムについて、新しいものをつくりたいという希望を出したときに、「今回は見送りましょう」とされました。新しいチームをつくる際の、最低人数など目安があれば、教えて欲しい。（大手一憲）

■ 上記の提案等についてのコアメンバー会議の回答

1. 会議において藤木が回答しましたが、使いやすいデータベースはマイクロソフトの Access か、ファイルメーカーしかないのが現状です。そのため、安価に自作できるデータベースは、ファイルメーカーを利用する以外に、他の選択肢がありません。そこで、構造をもう少し簡素化するなど、開発メンバーで検討中です。なお、ウィステリアそのものは、他の診療データベースソフトと比較すると格段に安価です。
2. コロナ禍の収束について見通しが甘く、予想どおりにはなりません。令和4年については、厳しい環境が続くことを前提に事業を進めていきます。コロナ禍次第では、改善は難しいですが、赤字幅をできるだけ縮小するように知恵を絞って努力します。そのひとつとしてオンデマンド e-Learning など新しい試みを始めています。オピニオンメンバーの皆さんも、是非ご協力ください。また学会事務局では、SNS を活用した情報発信に努力していますが、思うように拡がりません。オピニオンメンバーの皆さんも、是非、活発にレスポンスしていただくようお願いいたします。
3. 新たなチーム（プロジェクト、フォーラム）立ち上げについて提案があれば、積極的にご提案ください。提案者以外に賛同するオピニオンメンバーがおり、実質的な活動の見通しがあれば、新たなチームの設立としてサポートしたいと考えています。提案先：丸山和久。

## 社員総会（第6期第3回 オピニオンメンバー会議） 議事録

議長：齋藤 健

議事録署名人：志摩裕美／西村 誠

杉山：おはようございます。皆さんご参加していただき、日曜の朝からありがとうございます。今日すごくいい天気ですけれども、午前中オピニオンメンバー会議にお付き合いいただきたいと思います。

恐らく今年に入ってから、どこの医院でもオミクロンに大変苦勞しているんだろうなというふうに思います。実際、実は秋元さんも罹りまして、今日はオンライン参加となってしまいました。まさか秋元さんが罹るとは思ってもみなかったんですが（笑）、びっくりしました。うちの医院でも実は矯正の先生、それから家族全滅、お子さんが感染してスタッフが休んだ事例が3人だったか、ありました。毎朝どんな連絡が来るんだろうとハラハラドキドキしながらという日々だと思います。そういう医院がたくさんあると思いますけれども、何とか早く収束してほしいと思っています。

そういう中での今回オピニオン会議、これを企画したときには、ヘルスケアミーティングが終わったら恐らく落ち着くだろうと。日本デンタルショーもあるので近くの会場を借りて、デンタルショーの参加も兼ねてできればいいというふうに考えたんですが、そうはなりません。今日は会場に来ていただいている人はちょっと少ないですけどね。今年の秋のヘルスケアミーティングには、感染が落ち着いてたくさん参加していただけるといいかなと思っています。

最初に幾つか私からお話しすることがあります。まず皆さんのところにニューズレターは届いていますか。届いていたらぜひ手元に出していただけますか。今回、新連載もあって、今年の第1号なんですが、私も昨日見てすごい内容が充実していたなというふうに思うんですね。ぜひ今日の参加者の皆さんにお願いしたいんですが、この表紙のところにQRコードがありますね、Facebook、Twitter、LINE。真ん中の15ページを開けますと、そこにYouTubeチャンネルのQRコードがあるんですけども、これをぜひスマホで今かざしていただいて、登録をしてください。

残念ながらまだSNSの参加者が少なく、LINEがまだ227名、Facebookが264名、Twitter133名というのが現状です。YouTubeチャンネルに至っては78人で、オピニオンメンバー会議の人数よりも少ないという残念な状況です。事務局が頑張って、メールマガジンも含めて情報を流してくれていますので、これをチェックするとセミナーなどの情報が簡単に手元に届きますので、ぜひ活用していただければと思います。少なくとも一桁、ここの参加者が増えてほしいなと思っています。全部足してもまだ1,000人にいきません。ぜひこの機会に登録をして、そして月曜日には医院のスタッフにもぜひ登録をお勧めしてください。スタッフもこういうところを直接見て、このセミナーに

行きたいとかこういうことがあるんだとかという情報に、アクセスが簡単にできるようにしていただければと思います。最初の私のお願いです。

そして、16 ページです。この「The HyG Times」のところ、QR コードが 3 つ並んでいまして、これ私今朝見たんですけども、すごいよくできています。ちゃんと文字も入っていて、プロローピングの仕方、この模型もなかなかよくできているなど思ったんですけども、こういう活用をこれからどんどんしていけばいいと思っています。樽味先生のところの医院紹介の動画も、右のページに QR コードがあるんですが、YouTube で見られます。これは非常に分かりやすく、商品を陳列してあるところは商品じゃなくて、ちゃんとパネルになっていてそれを受付に持っていくと商品が出てくるという紹介もしてあったり、中の雰囲気もよく分かって、こういう医院紹介をこれからどんどんできると楽しいだろうなと思いました。ニュースレターとこういう動画、SNS がつながって、よりいろいろな情報が簡単にいつでも見られるというのが、これからの新しい情報の流れではないかと思いますので面倒くさいと思わずに使ってください。そして若い先生はどんどん使うと思いますけれども、知らない方がいると思いますので、ぜひ教えてあげてください。

そしてセミナー等も、今年は新しいものが次々と出ます。私が一昨年、昨年やりましたがキャリアスマネジメントは、Vimeo (ヴィメオ) という有料プログラムで、いつでもどこでも見られる形式に移行して、内容的にはほぼ同じなんですが、時間に束縛されることなく使っていただける方式になります。これも事務局が簡単な紹介動画を作ってくれました。とてもよくできていますので、その内容を見てこれを使いたい、医院の中でもスタッフ教育に使いたいということがあったら登録をしてください。登録の仕方とか分からなかったら……まあ分からないことはないと思いますね (笑)。PayPal、クレジットがあれば OK ということです。無料登録をしてもらえば使えますので、よろしく願いいたします。

2 つ目は会が設立してきてから、1998 年設立ですから 24 年ですか。3 月の頭だったから、設立総会は今頃の時期ですかね。25 年目に入るということですね。こういうニュースレターを見ていますと、とても活動は活発になってきていると思います。ただ 1 つ残念なことは、会員数はちょっと減少してきているんですね。特に歯科医師の会員数は 600 名を切ってしまいました (令和 3 年度の最新集計では 655 人)。以前には秋元さん、事務局のほうから、歯科医師が 1,000 名いれば会の活動資金は何も問題ないんだというような話がありました。私たちの会は、別に会員数を増やしていこうとか規模を大きくしていこうということに重きを置いている会ではないんですが現実問題やっぱり会員数の減少というものは、会のアクティビティー、活動性に影響を与えます。

端的に言いますと、例えば事務局の運営費、いろいろなセミナーの開催とか、いろいろな事務的なことにコストがかかります。やはりそういうところに影響が出てきますので、ぜひ皆さんそれぞれが、ヘルスケアに興味を持ってもらったら、会に入るように誘ってほしいと思いますね。特に 20 代から 40 代ぐらいの若い先生、これから先、歯科医師

人生がまだ長い方に入っただけだと、ヘルスケアはもっともっと良くなるんじゃないかなと思います。もちろん高齢の先生でも大丈夫です。よろしくお願いします。

私自身も設立当時から入っているんですけど、今は会に入らなくてもいろいろな情報は得ることができるんですね。当時はそういうことはなかなか難しい状況でした。会に入ることによって、どういうメリットがあるかという、一番はやっぱり人とのつながりだと思うんですね。ただ会に入らないでこういうヘルスケア的なことをやろうと、いろいろなセミナーに行く、なんだかんだやるということでも、もちろん情報を得ることはできるんですけども、やっぱり会に入っているいろいろな人と出会ってつながりができる。そういうところからどんどん活動が広まっていくし、医院にもプラスになっていく、スタッフにもプラスになっていくと本当に感じています。

学会の中で得た人的なネットワークというのは、本当に貴重ですね。歯科医師会も大事ですけども、それのたぶん10倍、20倍、100倍ぐらいあるんじゃないかなと、私は本当に思っています。ですからぜひ、会に入って人のネットワークをどんどん増やしてほしいと思っています。今日もここへ入ってきて、決して多くはないんですけども、入ってきた人たちと1時間近くそれぞれお話をする時間がありました。やっぱりリアルはいいですね。必ずコロナは収束しますので、そういう人的ネットワークをまたどんどん増やして行って、日々の臨床に活かしていきたい、活かしてほしいなというふうに思っています。

そして最近では、患者さんがヘルスケアの医院を転々とする。3つぐらいヘルスケアの医院を転々としてメンテナンスを受けているという事例を聞くようになりました。前々からヘルスケアの医院から、先生の近くに行くから紹介するなんていうことはもちろんあったんですね。うちの医院でもヘルスケアの医院を3つ目という方が2人か3人います。つい先日もそんなことがありました。その方は最初の振り出しの医院にまた戻られたんですね。公務員であちこち全国を転々とするんですけども、やっぱり患者さんの立場からすると、メンテナンスを受けたいと。でもどこの医院に行ってもいいかわからないし、衛生士さんがいるかどうか分からない。ちゃんと説明してくれるかどうか分からない。メンテナンスしてもらえるかどうか分からないという中で、そういうネットワークで患者さんが同じケアを受けてもらえるという、安心感ができつつあるのかなというふうに思います。

これにもやはり、ヘルスケアの認証医院、あるいはヘルスケアをポリシーにやっている医院が増えていかないと、うまくいかないことなんですよ。その方は札幌市から大阪へ行ってうちに来て、また札幌かな、そんな方です。ですからぜひ、会の会員数を増やすことは、もちろん私たちの会としても大事ですし、患者さんにとっても非常に大きなメリットがあるということなので、ぜひよろしくお願いいたします。

それから3つ目。今度コア会議の中に特別なチームをつくらうということになりました。これはどうしてかという、ヘルスケア設立から25年になりまして、やはりもっともっと活動性を高めたい。やはり平均年齢が上がってきちゃったんですね。私ももう63、

秋元さんも 70 ですね。ついつい経験があったり年がいくと、保守的になりがちです。そういうところを突き破って、もっとこういう方向にとかいろいろ意見をほしいなというので、そういうことを自由に議論して、今までのいろいろなしがらみにとらわれないようなメンバーで、話し合っていたきたいと、そういうチームの設立を考えていますので、これは一応コアのほうから依頼をする形を採るんですけども、依頼ありましたらぜひ積極的に受けてもらえたらと思っています。よろしくお願いします。

そしてこの特別チームとは別に、現在のコアメンバー、今 10 名ですけども、4 から 5 名程度の増員をしたいと考えています。これはコアメンバーは別に固定するわけではありませんので、一回辞めて戻るということもありでしょうし、若い人が入るということもありでしょうし、みんな結構仕事が増えています。特にオンラインセミナーとかもあって、やるのはいいんですが、それぞれの仕事が増えていますので、増員ということを考えています。

今のオピニオンメンバー、コアメンバーの任期は一応今年いっぱいですけども、この特別チームに関しては、その任期にとらわれず任期途中からという形でスタートして、もう決まったらすぐ活動していきたいと思っています。

私自身は 2011 年から代表をさせていただいていますが、前回のオピニオンメンバー会議でもお話ししたように、次期は交替したいと考えております。やっぱり何でも長く続けるのは決して良くないというふうに考えています。ですので、新たなヘルスケアを担ってもらえる人に交替していただきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。

以上、私の代表としてのあいさつですけども、今日はこのあと議案、重要な予算、決算報告、監査報告、それから今年のヘルスケアミーティングについてとかいろいろありますので、よろしくお願いします。

皆さん、画面を見ていると分かると思うんですけども、今日は藤木副代表が Web 参加されていますので、一言先生、お顔が見られますので、お話をしていただけるとありがたいです。よろしくお願いいたします。

藤木：おはようございます。いろいろご心配をおかけしてすみませんでした。病気してから 1 年半ほどたつんですが、一応今のところ順調に回復していますので、ご心配をおかけしましたけれども大丈夫、ちゃんと生きていますから。ただもう 1 年ぐらいはちょっと様子をしっかりと見ないといけないということなので、しばらく会議とかセミナーは遠慮させていただきますけれども、これからまたヘルスケアのためにできることをやっていこうと思いますので、よろしくお願いします。

病気になったんですけども、いいこともありました。患者さんからはいっぱい励ましの言葉をいただきましたし、スタッフがしっかりしてくれているので、私が入院して休んでいる間も、メンテナンスはもうほぼ通常どおりできました。こういうことを見ると、先ほど杉山代表が言われたみたいに、ヘルスケアというのがすごくいいこと、特にこれからの若い先生方にとっては、いい診療ができるということはまず間違いないので、若い会員の方がこれからもどんどん増えてほしいなと思います。先ほど代表が言

われましたように、コアをこれから増やそうと思います。そういうときに面倒だなとかと思うんじゃないくて、ぜひ一緒に参加して私たちを助けていただければいいかなというふうに思います。はい、じゃあこれからもよろしくをお願いします。

杉山：ありがとうございます。先生のお顔と声が直接見られて良かったです。だいぶお元気になられた感じが分かって、ほっとしました。どうぞ健康に気を付けて、これからもよろしくお願ひいたします。それでは司会、田中先生お願ひします。

田中：はい。では次に進みたいと思います。議案書の一番頭のページに、議事に先立ってというところがございます。永年会員表彰、これは昨年始めたものですが、今年は7名の方、永きにわたり当学会の活動に貢献されたことに感謝し、学会として記念賞状と記念品をお贈りいたします。7名の方はニュースレターの13ページに、入会年とお名前、勤務先の記載があります。一人一人読み上げはいたしません、ぜひニュースレターを見てどういう方が表彰されたかというのをご覧になっていただければと思います。それでは会議を進めていきたいと思います。

河野（正）：すみません。

杉山：はい。

河野（正）：議案に入る前に、先ほどの杉山代表のごあいさつの中で、ちょっと気になったことがあったんですけども、コアメンバーの増員を図るとおっしゃっていたんですけども、増員だけではなく、コアメンバーの若返りも図っていただけないと、なかなか難しいんじゃないかな。というのはご自身で言っていましたけれども、やっぱり年長者がいると保守的になると、ご自分でも気付いているということは、下の者はもっと感じているはずなので、増員だけではなく若返りを、ぜひ図っていただきたいというふうに思いましたので。

杉山：はい、もちろんそのつもりでいます。はい、当然です。ありがとうございます。

田中：はい、それでは会議を進めてまいります。まず議長選出ですけども、以前はいかがしましょうと言っていたんですけども、もうすでにスタンバイされているように、齋藤さんをまた議長としてお願ひしたいと思いますが、異議ございませんでしょうか。（拍手）ありがとうございます。それでは齋藤さんに引き継ぎたいと思います。お願ひします。

齋藤（以下議長）：はい、齋藤でございます。毎度つたない議長で大変申し訳ございませんが、始めさせていただきます。

まず会議の成立につきましてですが、会場出席16・オンライン出席46、会場内のPCが10ということで、Zoomの56の数は合っているということでございます。オピニオンメンバー合計82名でございますので、出席数62名。欠席は19名、不明が1名で委任が19名、議長・私に17、大本さんにお一方、千草先生にお一方と、こういうことになっておりまして、本日の会議は成立しております。

次に議事録署名人を選出したいと思います。医療法人西村歯科の西村誠先生に、もう

お一方はおおい歯科からの志摩裕美さんをお願いをいたします。よろしくお願いいいたします。毎度いつもどおりですけれども、ヘルスケア歯科学会はさん付けで皆さんお呼びしていますが、オンラインの方もいらっしゃったりという関係で、歯科医は先生、その他の方はさん付けで今後、進めていきたいと思っております。

それでは議事でございますが、まず第1号議案です。令和3年度事業報告および決算報告につきましては、田中先生と秋元さんをお願いをしております。よろしくお願いいいたします。

田中：まず私から令和3年の事業報告をいたします。議案書の2ページ目、令和3年度事業報告、1、オピニオンメンバー会議、皆さん参加していただいたのを2回、例年2回、2月と9月に行っております。いずれもハイブリッドにして開催いたしました。それからニュースレター、先ほど杉山代表からもお話しありましたけれども、どんどん内容が充実してきております。昨年度は1号から5号、今皆さまのお手元にはVol.25、今年度の1号が届いていると思います。学会誌発行、昨年末に届いたと思います。

ヘルスケアミーティング2021、今回もハイブリッドで両国で行いました。2年連続ですね。健康を守り育てる歯科診療所の認証事業ですけれども、今回は、今年というか令和3年度は認証ミーティングを2回に分けて行っております。4月1日と7月11日、それぞれ6クリニック、3クリニックが認証されました。認証された医院は議案書に書いてあるとおりです。

オンラインでのセミナーを活発に行いました。1月から有料のセミナーを24回、無料のオンラインセミナーを5回。一つ一つ読み上げませんが、かなり内容のあるセミナーをやっておると思います。また今年も同じような企画をしていますし、このニュースレターにもカリエスセミナーでしたか。チラシが入っていると思います。今年もどんどん新しいセミナーをやっていく予定です。

オンラインサロンは1月2月はこの内容でやったあと、高橋先生、渡辺先生でのオンラインサロンを、毎月第2火曜に開催されました。

再三にわたり中止・延期を余儀なくされていた歯科衛生士の基礎コースですが、2019年の2月に予定されていた第5回・6回の分が中止になり、それが1年以上中止したあとに、昨年8月から再開しようとしたら、そこも第5波にぶつかっちゃって延期になって。講義部分については10月にオンラインで開催と、オンデマンド（動画）で出した講義を使って講義部分を修了しました。それから実技検定、検定とSRP実習については、11月・12月。今年の1月、それから今月2回、来月1回で、ほぼ修了できる予定であります。

第1回関東実践セミナー、これもWeb開催に切り替えて開催いたしました。第3期実践セミナー、関西は途中からWeb開催に切り替えてやりました。

コアメンバー会議はこのWeb開催で毎月1回やるんですが、イレギュラーに臨時Web会議、それからリアル、以前はリアルで集まってやっていた部分も、オンラインを活用してかなり積極的に会議を重ねております。Web会議につきましては議事録が、ちょっと遅れるときもありますけれども、ホームページに載っていますので、ぜひどんなこと

を話しているかなどはご覧いただけたらと思います。

令和 3 年度の事業報告は以上です。次は決算報告については、秋元さんからお願いしたいと思います。よろしくどうぞ。

秋元：はい。では引き続き、令和 3 年度の決算報告をさせていただきます。今回私事でいろいろご迷惑をおかけして、オンラインでの報告になります。大井先生のような厳しい状況ではなくて、ちょっとした熱と体調の厳しさを数日経験しているだけで、悪いことをしているからたまにはお仕置きを食らっているんだらうと。私のところは奥さんが臨床歴 45 年以上の調剤薬剤師でありますので、なんだかんだとうるさく管理されておりますので、特に病院に行かなくても、同じぐらいに厳しい措置を食らっております。

令和 3 年度の決算報告ですが、一言で申し上げますと、経常収支で 405 万円の赤字、これは 4 年連続の赤字になります、を計上いたしました。一言で言えばコロナ禍の影響が最も大きいものです。ただ非常に大きな赤字幅でありますので、皆さんご心配になられると思いますが、内容を少しだけ申し上げます。

報告に書きましたが、分かりにくいかと思いますが、まず収入のほうで会員の数ですが、先ほど杉山代表に私のほうから申し上げた数字が少し間違っていて、歯科医師数が 600 を切ったというふうに表現されましたが、これは去年の夏の歯科医師会員数が 624 人で、それから退会者が 28 人いたために 600 を切ったという計算をしていたんですが、その後入会者もいるし、遅れて入金した人もいますので、プラスマイナス計算しますと、実際にはこの議案書に書いたとおりです。

つまり令和 3 年度の会員数、これはどの時点で計算するかによるんですが、ざっと計算して令和 2 年度の会員数に比べて、わずかな減少に留まっているというふうに申し上げることができます。このために収入の部の会費収入に関しては、大きな変化はありません。もちろんこの会計は当年度の会員について当年度の収入を上げているわけではなくて、いずれの年度に関しても当年度の収入をただ上げているだけですから、時期のずれを反映しますので、あまり収入における会員数の増減、会員数の増減が収入に直反映しているわけではありませんが、そのような実態です。

それから今度は事業に関する、全体は事業と管理に分けているんですが、事業に関しては次の報告は事業ごとになっていませんので、次の 2 つのページの収支報告書の損益計算書と増減決算書の次に、事業ごとの収支を 4 ページにわたって出しておりますので、それをご覧いただければ分かると思います。

全体として、1 つはコロナの関係で実際に会場を、比較的大きな器を予約しながら、実際にはそこに人があまり集まらずにというのが、オピニオンメンバー会議を含めてありました。そういうことから、会場費が膨らんでいます。それが対前年比で 100 万円、会場費が増えています。

それぞれの事業収支は後ろの表を見ていただければ一目瞭然だと思いますけれども、まず認証ミーティングを 2 回開催しています。認証ミーティングはほとんど収入がありませんので、マイナスが前年比 76 万円あると。それから第 3 期の実践セミナーに関しま



して、コロナ禍の関係で開催が Web に変更されましたので、その関係で返金をしました。前年度、令和 2 年度の収入に上げているものを令和 3 年度で返金していますから、純損になっています。

ヘルスケアミーティングも比較的大きな器で用意しました。これは対前年 47 万円収支マイナスですが、前年がそもそも比較するようなものではなくて、本当は前々年のコロナ前と比較しないといけないですが、そういう意味では非常に大きなマイナスです。

それから非常に大きいのが、14 期の歯科衛生士育成プログラム、これは途中で、まだ終わっていないのですけれども、収支差額がかなりマイナスになっております。こういう事業関係の収支のマイナス合計が、だいたい全部合わせて 220 万円ぐらいの対前年マイナスになっています。

それから今期に関しては、次の実践コースの会費を前受金として処理していますので、今期の収入には入れていません。これが 120 万円あります。つまり実践コースに関しては第 4 期、次の実践コースのものを前受金にし、第 3 期のものを返金していますので、返金 80 万円、前受 120 万円、合わせて 200 万円の見かけ上のマイナスをつくってしまっています。ただこれは見かけ上のものだというふうに、理解していただいて結構だと思います。

企画商品の販売に関しては、かなり大きなマイナスになるんですが、つまり制作費・開発費がたくさん出ているのですけれども、これは足かけ 3 年をかけて開発していたウイステリア Ver.6.0 に関する、これは主に当社（秋編集事務所）がやっているものに関してなんですが、特に直前 6 カ月ぐらいはかなりの労力を費やしております。これが約 100 万円の請求ということになっています。これと併せて、今ギリギリなのでまだウイステリアには反映していませんが、写真の処理をするフォトビューアーを、森さん（アクセス）のところで作ってもらっているものに対して、外注開発費として計上をしています。支払いました。合わせて 145 万円というのは、本来は 3 年か 4 年に分けて計上していくべきものではありません。それからもう 1 つが、それが出来上がった、ウイステリアの Ver.6.0 を会社会計などであれば資産計上するということになりませんが、今回の場合はウイステリアを資産計上しておりませんし、かかった費用を分割していません。ということで、令和 3 年度に集中して損金だけが発生し、資産にも上がっていないということで、大きなマイナスになっています。

最後の議案書 5 ページの一番下の段落ですが、管理費に関しましては印刷製本費が前年に比べて 74 万円増えています。これはあまり変化がないはずのところが大きな変化なんですけど、特徴的なところは先ほど杉山代表のごあいさつからもありましたが、ニューズレターの充実というお話がありましたが、その裏腹の関係なんですけれども、前年の 5 冊、23 巻の 5 冊の合計ページ数 92 ページに対して、去年の 24 巻の合計ページ数は 132 ページあります。というようなことで、カラーページ、かつ増ページになっているということで、印刷製本費が増加しています。

というような関係で、収支として 400 万円のマイナスを出したというような報告にな

ります。なんか弁解をしているような感じではありますけれども、実質的には先ほどの実践コースの見かけ上の 200 万のマイナスというのと、ウィステリアの本来は分けて処理すべきものの、つまり 145 万というようなことを考えますと、実質的には前年並みのマイナスというふうに解釈できると思います。これが令和 3 年度の決算です。よろしくご審議ください。

議長：秋元さん、ありがとうございました。それでは次、令和 3 年度会計監査報告につきまして、こちらは河野（正）先生にお願いをしたいと思います。

河野（正）：監事を務めさせていただいている河野です。そこに書いてありますように、2 月 17 日に会計監査を行いました。監事の鈴木さんと私、秋元さん、それと会計を担当している事務所の方 1 名ということで、4 名で会計監査をいたしまして、厳正に処理されていることを確認いたしました。以上です。

議長：河野先生、ありがとうございました。それでは第 1 号議案につきまして、質疑応答に移りたいと思います。ご発言のある方、いらっしゃいますでしょうか。手を挙げていただいてご発言いただくか。いかがでしょうか。はい。大井先生ですか、よろしくお願いいたします。

大井：会議報告の中でニュースレターのページ数が増えたということでの経費が増加したというお話が出ていましたけれども、ニュースレター委員会の一員としてご質問させていただきますが、このニュースレターのこの充実度をキープしても、またより一層充実する方向に持っていかけても構わないのかどうかということに関しては、このオピニオンメンバー会議で皆さんのご意見をお伺いしたいなど。経費がかさむのは駄目だということであれば、その辺セーブしないとイケないかなということも考えないとイケませんので、どうぞよろしくお願いいたします。

議長：大井先生、ありがとうございます。経費にかかわらず充実をしたほうがいいですかということではよろしいですか。はい。こちらの件につきまして、ご意見とかございませなかね。どうでしょう。

河野（正）：はい。

議長：はい。河野先生、お願いします。

河野（正）：ニュースレターに関しては、私の考えは今みんなで集まる場がほとんどなくなってしまったことを考えると、このニュースレターというのが会員とヘルスケア学会との唯一の接点ともいえるものだと思いますので、多少もちろん費用はかかっても、私としては最近すごく充実して読むのが楽しみだし、「ああ、すごい頑張っているな。みんないろいろやっているんだな」というのが分かりますので、ここは会員に対する情報提供、サービスということを考えますと、お金がないからちょっとショボくしようというのは、私は反対です。むしろこのままいってほしいというのが、私の意見でございます。

議長：現在のご時世に合わせた非常に貴重なご意見をありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。よろしいですか。

秋元：今の件ですけれども、これはコアメンバーとしてのきちっとどこまで合意している

かというのはあやふやですが、次の第 2 号議案の予算のところでは触れますけれども、ニュースレターに関してはやはり少しページ数の増加を抑制していただきたいと。つまり量的なものよりもニュースレターの質の向上という努力をしたいという提案になっています。13 ページの予算というほどのものではありませんが、細かい数字が書いてある事業費計のところでは、事業費の圧縮要因として、ニュースレターを年間 110 ページ程度にしたいというようなことを書いております。

それは一応収支を考えた場合の、前々年までではなくて、前年より少し少ないという程度ですけれども、無制限にページ数をどんどん増やしていくということがいいというわけじゃないだろうと。本会のニュースレターは日本歯科医学会、専門分科会、認定分科会全てを通して、恐らく比較にならない情報量のページ数になっておりますので、どうかその辺のことは質の向上という点をご理解いただきたいというのが、コアメンバーの意見です。

議長：秋元さん、ありがとうございます。ちょっとここでニュースレターを担当されている林先生、何かございますかね。突然で申し訳ございませんけれども。

林：ニュースレターを担当して編集代表もやっています林と申します。先ほどの大井先生も河野先生も本当に、僕にとってはまさに正論というか、もうニュースレターを充実させるために僕はニュースレター委員会というのを立ち上げたものですから。ただ反面、赤字になってしまうと。ページ数が今回 28 ページですけれども、24 ページ以上になると赤字になってしまうとかというお話もちょっと聞きました。今後はその辺も多少考えつつ、最終的な編集はニュースレター委員会でやっているんですが、そこも見していきたいなど。ただこういうふうには充実してきているのは、やはり会員皆さんのおかげですし、その気持ちとかその厚意は今後もくみ取っていききたいなと思っていますので、ぜひ何かニュースレターをショボくするとかそういう意見はなく、皆さんで活気のある学会活動の報告ができるような、連載とかをやってみたいとかという方もぜひどんどん応募してもらいたいなと思っています。以上です。

議長：突然振りまして失礼いたしました。ありがとうございます。ほかにございますか。よろしいですか。それでは採決に移りたいんですが、ここに今ボックスを画面に表示する形にいたしますので、少々お待ちください。

議長：加藤先生？手を挙げていらっしゃいますか？

加藤：ウイステリアの件なんですけれども。ウイステリアに結構開発にお金がかかっているということなんです。ウイステリアは当会の学会にとって非常にデータ管理をする上で大事なものであるという、ずっと長年使ってきているんですが、ファイルメーカーそのものが毎回バージョンアップするたびにいろいろ変わってきたりして、すごくお金がかかるというのもあって、新しく構築するのに結構な負担がかかるんですけれども、これをずっとこのまま続けていくのか、あるいはまた別のものに変えていくのかとかというのは、考えていらっしゃるのか、もうちょっと安価なものでデータ管理ができるようなものがないのかなと思っています。これはちょっと導入するにしてもハードルが

高くなってきているなというふうに思っていますので、これに関してちょっと、ほかの案というか、ウイステリアに代わるものを考えられないのかなというふうに思うんですが、それはないですか。

議長：加藤先生、ありがとうございます。こちらの件は秋元さんでよろしいですか。

秋元：ちょっと僕じゃ無理ですね。今回の場合、これは田中先生？

田中：これは丸山先生なんだけれども。。。

藤木：私でいいですか。

議長：藤木先生、よろしく願いいたします。

藤木：加藤先生、お気持ちはよく分かります。ただやっぱり使いやすいデータベースはもうファイルメーカーしかないというのが、今の現状です。データベースソフトというものの自体がマイクロソフトの Access か、それかもうファイルメーカーしかないというのが現状なので、当面はそれをやっていきたいと思います。ただ、問題がないわけじゃなくて、構造もだいぶ古くなっているのもう少し簡素化するとか、そういうことを今、開発メンバーで考えています。

議長：藤木先生、ありがとうございました。加藤先生、よろしいでしょうか。

加藤：はい。

議長：じゃあそれで……上田先生？ よろしく願いします。

上田：加藤先生のおっしゃる様にウイステリア自体の費用がというのはあるんだと思うんですが、僕もウイステリアの導入を考えたときもあるんですけども、結果今はデンタル X というソフトを使っております。このデンタル X というのは月々8,000 円かかりまして、初期導入は100 万以上かかるようなソフトでして、前回のデンタル X プロにバージョンアップすると言われて、それがまた20~30 万、もっとかかっていますね。ウイステリアは高価なソフトだと思いますけれども、それでもデンタル X ユーザーからするととても安価に見えると思っております。

ということはちょっと付け加えさせていただきまして、あともう1 点に関しましては、予算のことでニュースレターの件というのもありましたけれども、いつも思うのは年会費上げればいいじゃないと、いつも僕の中では思っています。毎年上げないというか、上がらないといわれている保険歯科診療でさえ0 点何パーセントとか上がっているというので、このあと10年20年30年と会費を上げずにいくつもりなのか、この間YOSHIDA さんからも製品値上げのお知らせみたいなものがきたりしてもおりますし、なかなか皆さんも自費の治療費とかでも上がってくれば上げる。今年の4 月はいろいろなものが値上がりするとも言われてもいるし、予算がないからきゅうきゅうとやっていくというよりは、年会費とかを2,000 円とか3,000 円とか5,000 円とか上げちゃえばいいんじゃないかと、いつも思います。以上です。

議長：はい。会費にまで言及していただきありがとうございます。では杉山代表にお願いいたします。

杉山：はい。まずウイステリアについて補足なんですけれども、ウイステリアのアプリケー

ション自体は高くないんです。その基となるファイルメーカーのサーバーとかクライアントをそろえると、ちょっと費用がかかるようなシステムになってきてしまったところ。事情がよく分からなかったら、そういうふうには理解していただけるといいかなと思うんですけども。ただ、今新しい動きとしては、例えばここにいる林さんとか田中さんがやっているんですが、デンタル X ユーザーでもウイステリアの機能を活用していきたいということで、ファイルメーカーを1つだけ買って、そこにそういう必要なデータを入れるという流れが、動きが今できつつあります。

僕もそれは非常にいいなと思っていまして、なかなか開業当初とかに入れたものを変えるというのは大変なんですけれども、そういうふうによく使っていくと、それはファイルメーカーのソフト1本とウイステリアを1つ買えばいいわけですよ。自分が調べたいという情報をそこにコツコツ入れていったり、前のを移し込んだりするという使い方が結構効果的なんじゃないかなというふうに思っています。ですから写真はこれまでの、でもデータはウイステリアにと、こういう流れも林さんと田中さん達がやっています。そうするとすごく安く、データはちゃんとたまって解析ができる。こういう活用法をこれから、ニュースレターで特集が今始まったんですが、そういうこともできますので。やっぱり長年データがたまってくると、どういうふうにはそれを解析して自分のところで見たいとか、そういう活用のことに関しては、デンタル X ではなかなかできないことが、ウイステリアではいろいろできますので、そういう動きもあるということをちょっと知っておいていただければなと思います。これは本当にコストがかかりません。

それからもう1点今、会費の件に関してですけれども、今のところコアの会議で会費の値上げの話は出ていません。現状の資産で、まだ危機的な状況にはないというところで、なるべく会員の負担を増やさないと。その代わり歯科衛生士とかぜひ正会員になっていただきたいと思っています。そして新たな若い先生方、もちろん年配の先生方も会員になっていただきたい。近隣の先生がいれば、ぜひ会員になっていただきたい。そういうところのハードルはできるだけ上げないでいこうというのが、今のところの考え方ですので、ご理解をいただければなというふうに思っています。

議長：はい。杉山先生、ありがとうございます。デンタル X とウイステリアについては、チーム報告の4ページ目のところにもございますので、ご参照いただければと思います。

それでは採決に移らせていただき……はい、じゃあ大手さん、お願いします。

大手：大手です、こんにちは。先ほどのニュースレターの話に戻って申し訳ないんですけども、1つ相談をさせてください。先ほど質の充実、量の充実をしていきたいという一方で、予算的な縛りがあるよというお話しだったと思うんですけども、これ例えばニュースレターを原則電子ファイルで発行、例えばメールで一斉配信するという形にして、希望者に対しては紙で発行すると。ただそれは紙で発行の手数料をいただいて、会費等とともに引き落とすというようなやり方で、今 SDGs なんかも叫ばれているので、紙資源削減の配慮も込めて、そんな形にしたいですというやり方は、やりようはあるのかどうなのかなと思うんですけども、いかがでしょうか。

議長：大手さん、ありがとうございます。林先生？ これ秋元さんいかがでしょうか。電子化の検討という。

秋元：ちゃんと議論をしてはいないんですが、普通に考えて現在 1 回について 1,300 部ぐらい印刷しているわけです。これを希望者だけ、例えば半分にしてどれだけ安くなるかという誤差です。ほとんど誤差です。というのは印刷経費そのものが非常に価格崩壊しておりまして、だからこそ今、これだけのページ数のカラーで出しても、実は以前モノクロ 2 色でやっていたときに比べてコストアップしていないというのは、それが理由なんです。今回の費用増もページ増によるものですので、価格破壊を起こしているが故に、実は印刷にかかる経費を 1,500 部を必要なものだけ、恐らくオンデマンドという考え方で必要部数だけ刷るということになると思いますが、そうだとすると費用はページ数に依存するのであって、部数にはほとんど依存しないという関係にありますので、印刷というものの特性上、1 部刷るのと 1,000 部刷るのと、それほど差がないという、違うのは紙代だけという性格のもので、完全に印刷をやめてしまうということになると、かなりコストは違うと思います。ですが一部印刷というのはほとんどコストダウンの意味はないというふうに思います。

議長：秋元さん、ありがとうございます。大手さん、いかがでしょうか。

大手：すみません、勉強になりました。ありがとうございます。

議長：大手さん、ありがとうございます。よろしいですか。そろそろ採決に移りたいと思いますが、今皆さまの画面に出ていると思いますので、こちらに承認する、承認しないに入力をお願いいたします。会場は手挙げということだそうですね。

結果はどうでしょうかね。ただいま 44 のご承認ということだそうですね。はい、締め切りますということです。

若井：若井承認でお願いします。

議長：はい、ありがとうございます。では手を挙げていただける、ありがとうございます。

オンライン 41 名、会場過半数です。(委任の方の決議権は承認に上がりましたので、大多数承認で可決。)

それでは時間もちょっと押しておりますが、次、第 2 号議案、令和 4 年度……。

河野（正）：すみません。

議長：はい河野先生、お願いします。

河野（正）：すみません、私ばかり発言していて申し訳ないんですが、この決算報告は会計的には全く問題ないと思うんです。ただオピニオンメンバーの方はみんなおとなしいんだと思うんですけれども、この 400 万も欠損というか赤字を出して、誰も何も言わないの。どう思います？ 先ほど経済的には危機じゃないというけれども、もうあと 4,000 万しか残っていないですよ。これ 10 年やったらこの会破産ですよ。という危機感を持ってもらいたいなと。

それから秋元さん、決算の結果についていろいろと詳しく説明していただきましたけれども、意地悪な見方をすれば単なる言い訳。あとから見てこうだったからしょうがない

いよねということだと思うので、ぜひやっぱり今後はこういうことがないように、もうちょっと危機感を持ってコアメンバーの方はやっていただきたいなど。去年のこのオピニオンメンバーのときも、10年で2,000万ぐらい減っているけれども大丈夫なのと言ったら、そのときは杉山代表は、いや、今後はそういうことはありませんと。オンラインを使いながら効率的にやっていくので大丈夫ですと言われたので、僕はちょっと安心していただけんですけども、ところがどっこい400万の赤字と。

実は監査当日、監査会場に行くまで数字がなかったもので、会場でこの数字を見せてもらったときに、私は本当にびっくりして大丈夫かなというふうに思いました。ぜひそういうことを心掛けて、来年も予算どおりいくと、でもやっぱり85万、100万近い赤が出るということですので、もうちょっと長期的な展望に立って、この赤字にならないような運営の仕方を、コアメンバーの方はしっかりと考えていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

議長：では杉山先生、お願いします。

杉山：河野さん、ありがとうございます。おっしゃるとおり、私も最初数字を見てびっくりしました、正直。秋元さんの説明を聞いて納得した次第です。コロナがやはり2年じゃなくて、1年で収まるかなということもあったものだから。ただ、これが来年収まるという保証も何もないということも事実です。ですから本当になるべくこれ以上減らない……なるべくじゃないね、減らないようにということをやっていきたくと思うので、よろしくお願いします。

議長：河野先生から貴重なご意見をいただきましたが、次は第2号議案の令和4年度事業計画およびヘルスケアミーティング2022につきまして、こちらは田中先生ですね。

田中：はい。令和4年度の事業計画についてご説明します。オピニオンメンバー会議は今日と、それから10月9日に予定されております。ヘルスケアミーティングの初日の午前中、リアルでやっていたときはだいたい秋のヘルスケアミーティングの午前中、1日目の午前中と3月というのがだいたい2回だったんですが、今年はその予定でおります。それからニュースレターの発行は、さっき林先生から説明があったように、今年も5回発行。学会誌も暮れに発行予定です。

ヘルスケアミーティングについては、あとで秋元さんから説明があると思いますが、田町の建築会館と、昔懐かしいところですけども、そこで予定しています。なかなか赤字の原因だった、どこだったか、秋葉原とかコロナでなくてもキャンセルしてもお金を取られるという、厳しい状況が一昨年、令和3年、2年度か。2020年とかはあったわけですが、そういうところもいろいろ知恵を絞って、今回は建築会館というところになっております。

健康を守り育てる歯科診療所認証事業、今年7月10日予定で、すでにエントリー予定の医院が出ております。今5、確定が5ですね。あと2つぐらいがどっちかなというところ。それから各種セミナーについては、詳細は略します。あとコアメンバー会議

とオンデマンド e-Learning というのを、これは杉山代表。

杉山：オンデマンド e-Learning、ここで目標 200 本売り上げようというところで、ぜひ活用してください。

田中：はい。200 本売れると 200 万円と。ですよね、確か。はい、なのでぜひフライヤー入っていますので、宣伝をお願いします。

それからヘルスケアミーティングのところを飛ばしまして、あとは各セミナーの中に歯科衛生士の基礎コース、これも赤字の原因になったわけですが、基礎コースは予算のところを見ていただくと分かるように、毎年毎年 400 万、300 万という収入があったんですが、これは年度をいつもまたいでいるんですよね。前の年に 2 回、年明けて 1 回とか、前の年 1 回、年明けて 2 回とか。収入はその前の年に入っているんで、今回のように中止になると、翌年以降の収入がなくて、支出だけ出ていくということで結構な赤字になる。今年もまだ、すでに終わった 1 月と、それから今月 2 回、来月 1 回というのがあります。残念ながらそれは 1 昨年に得た収入が基になっていますので、年度では赤字になります。しかしこれは責任上ちゃんと最後までやらなきゃいけないということで、コアの Web 会議で承認を取ってやると。

それから 14 期（2019 年）の基礎コースは多くの申込みがあって、もうすでに認定衛生士がいるところとかをだいぶお断りして、できれば実技検定会に回ってもらえないかということで、お願いして辞退していただいた方々、それから 2019 年の 3 月の実技検定会にすでにお金を払って申し込んで、そのあと中止になった方々がおります。その方々のために、実技検定会を今年やる予定です。一応 7 月を予定しているんですが、これは新規募集はしないです。あくまでも 2019 年のときの積み残し。それが終わったら 15 期の基礎コースを行いたいと思っておりますが、これも 14 期がきちっと終わる、それから実技検定会も終わるという前提で次の 15 期に移りますので、残念ながら今予算化されていないです。

このコロナ第 7 波が来るかもしれない。それからその実技検定会がつつがなく終了できるかどうか、まだ分からない状況なので。ただ予算化されると一気にこの赤字がくると変わるわけですが、それは念頭において予算を、あとで説明があると思えますけれども、その辺は検定会の収入がないと、予算化されていないという点をご考慮いただければと思います。

それから動画レンタル販売というのは、経費がかからないで売れば売れるほど収入になりますので。内容はもちろん十分お勧めできる、周りの人にもお勧めできる内容です。そういうのもやって収入を上げていけたらなと考えております。

事業計画については以上で、あとヘルスケアミーティングと予算については、秋元さんから説明をお願いいたします。

議長：田中先生、ありがとうございます。それでは予算、ヘルスケアミーティング 2022 につきまして、秋元さんをお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

秋元：今の田中先生の事業計画を実行するための令和 4 年度予算ですが、監査で河野先生



から厳しいご指摘を受けて、実はそれから泥縄でこのグラフを二晩ほど頑張りまして作りました。すみません。つまり本会のような公益法人の場合は、本来ならば予算、いろいろな支出や収入について、積み上げて予算を作ってということ、本来はやるべきですけれども、今まできちっと積み上げた予算というのをほとんどやったことがありません。そういうことでは、河野監事がおっしゃるような長期的な見通しを持った会の運営ができないじゃないかというご指摘、ごもっともです。少しでもその方向に近付くということをお考えまして、皆さんに分かりやすくという意味で、上のグラフを作ったんですが、議案書 13 ページの上のグラフをご覧いただきたいのですが。

実はこれは、こういうグラフを作るのはそれほど簡単ではなくて、例えば事務局費のようなものは事業費と管理費、その事業費も各事業ごとに按分されております。だからそういうものを全部拾ってきて足さないと、事務局というものが算出できない。つまり管理費に関しても、そういうふうにしてその内訳部分が幾つかの事業費に割り当てられていますので、それほど単純にグラフ化することができないんですが、それを拾い集めて単純化したのが上のグラフです。そこでもう一目瞭然だと思いますが、1つ大きなポイントは、この後ろに隠れている棒が支出で、手前の棒が収入なんですけれども、支出が 2018 年に大きく出ています。これはその 2018 年の収入が大きいものに対応しているわけです。

この収入の一番上の薄い水色は、実はファイザーから 520 万円ほどの助成金をもらっているということですね。これは私の責任があるんでしょうが、500 何十万円というお金をもらったものだから、ちょっと財布のひもが緩んでしまって、かなり乱費をしています。この禁煙支援に関する事業は比較的緩やかな支出をしてしまっています。それがたぶん、気分的に影響したのではないかと自分では思っているんですが、全体としてこの収入が増えた以上に支出が増えてしまっています。

その後、今度はコロナですけれども、2019 年までこの真っ赤なところが歯科衛生士セミナーの収入なんですけれども、これが今、田中先生から説明があったように、2019 年度の会計の収入で、実はいまだに 3 年越し、まだ支出をしているということがありまして、この赤い収入がほぼ 0 になっているということですね。それからこれが非常に大きな要因です。それからこのピンクの部分、赤の上のピンクの部分はその他のセミナー収入、主に実践コースが大きいんですけれども、実践コースもこの 2019 年に入ったもので、今は支出だけをしているというようなものでした。つまり返金をしたりしているということがあります。ただ、先ほど申し上げましたけれども、2021 年度は次の実践コースの収入を、参加料を前受金で処理していますので、収入のほうに入っていません。そういうことがありますので、その分は 2022 年の収入になるということですね。

というような今までの流れを踏まえて、2022 年をどうするかというふうな意味での予算を、一応絵として描いてみました。その中で言えることは、今申し上げたその他セミナー収入の部分が増えるという部分と、それから特にそれは実践コースの前受金部分が 120 万円増えるということと、千草先生にやっていただくペリオセミナー、それからワンデーセミナー、歯科衛生士の落合さんを中心にやっていただくことにしている歯科衛生

士初期研修コース、新人研修ですね。というような新しい試みがありますので、その他セミナーの収入増はこの程度は見込めるであろうと。

それから企画商品としては、ウイステリアの販売が徐々にあるであろうということと、歯磨剤のパンフレットなどをリニューアルする計画があるということから、ほぼ今年と同額ぐらいの売上を見込んでいます。当然、e-Learning が本当に大きく売り上げれば、もうもっと万々歳なんですがこの程度のことを見込んでいます。

それから事業費に関しては、先ほど申し上げましたがニュースレターを今年と、今年よりももう増えないという程度に、ちょっと抑えると。今年より少し抑えるという程度のページ数減にしたい。

認証ミーティングは2回でしたが1回ですので、多少事業費の費用の減少にはなるだろうという収支から、今年度に関しましてはコロナ禍の影響がすでにまだ続いておりますので、収支を改善するということまではいかず、ややマイナスの決算、赤字の決算ということを見込まざるを得ないであろうと。しかしここで、先ほど田中先生がおっしゃった歯科衛生士の育成コース、それからe-Learningの2つのところがうまくいけば、逆にプラスに転じることができるだろうというような予算、予算というほどのものではありませんが、方向性を持って今年度を考えているというのが、コアメンバーの考え方です。非常にざっくりとした説明でしかありませんけれども、この全体の収支の流れを見ていただいて、ご理解いただきたいと思います。以上です。

議長：はい、秋元さんありがとうございました。

秋元：ヘルスケアミーティングはちょっと、これとは別にまた説明します。

議長：じゃあ質疑のあとでよろしいですか。はい。かしこまりました。それでは事業計画ならびに予算について、質疑に入りたいと思います。いかがでしょうか。藤本先生ですね、よろしく願いいたします。

藤本：盛岡の藤本です。よろしく願いします。一会員としての質疑応答というか意見なんですけれども、今コロナ禍でいろいろなことができないで、収入もないので赤字というところはすごいよく分かりますので、ぜひ衛生士さんに対する事業とか、今発信している情報発信の事業、コロナが明けたら黒字に転ずる見込みがあるのであれば、縮小せず継続してやっていただきたいなと思います。本当に運営されているコアメンバーの皆さんの苦労も分かりますし、コロナ禍で集客できない苦労もすごい分かりますので、ぜひ予算、ちょっと赤字になるときがあったとしても、ヘルスケアのいろいろな事業は続けていただきたいなと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

議長：藤本先生、ご意見ありがとうございました。ほかにございますか。いかがでしょうか。よろしいですかね。それではまた、採決のボックスをお願いいたします。

田中：まだ事業計画、ヘルスケアミーティングの件が残ってます。

議長：かしこまりました。秋元さんをお願いしましょうか。

秋元：事業計画の中の1つとして、今年のヘルスケアミーティング2022の企画概要についてご説明します。今年のヘルスケアミーティング2022は、メインのテーマは高齢者です。

一応高齢者の課題ですけれども、高齢者のヘルスケア診療というテーマで、2日間で1日目の午後はサブのセッションとして、コロナ禍から得たものについてのセッション。これは外部の講演を少ししたあと、医院のコロナ禍から得たものについての議論をするということですね。それからもう1つのサブは、2日目の最後にCRASPに関する、次につながる内容のものを予定しています。

ではメインですが、「高齢者のヘルスケア診療」というテーマについて、若干ご説明します。これは高齢者といっても法律上の65歳ということではなくて、だいたいイメージとしては85歳より上というような方をイメージしていただきたいんですが。高齢者をテーマにするというふうにすると、ヘルスケアの中では今まで、「僕のところでは訪問やっていないからちょっとね」という反応なんですけど、そうではないんだと。今の定期ケアの延長線上で、もうこの85歳というものを、以上という年齢層をきちんとターゲットングしていこうじゃないかと。意識していこうじゃないかというのが今回の趣旨です。つまりフレイルの問題、フレイル予防という問題や、それから定期管理が亡くなるまで続けられるわけじゃありませんし、高齢になるに従っていろいろな問題をそれぞれの人が持つわけですから、ある意味では地域の多職種に、どういう時期にどういうふうにつないでいくかということも、ヘルスケア診療の中で想定すべきじゃないだろうかというような、かなり幅広いテーマになります。

なかなか難しいテーマなんですけど、でも振り返って考えてみたら、そもそもヘルスケア診療というのは、口の中のカリエスとペリオだけを見ているわけじゃなくて、その長い間の患者さんとの付き合いをきちっとしていくことを考えるときには、当然スタッフ、受付、院長、それぞれが常に人としての患者さんをケアしているということが、前提にあるわけです。ですからそれをもう少し意識する意味で、高齢者にフォーカスしてみようということです。そのことによって今の若い人をターゲットにした場合のヘルスケアのあり方が、もう少し幅を持ったもの、つまりかつてであればカリエスフリーだけが目標というものから、そうではなくて一人一人の健康、一人一人の生活の幸せというものをどうケアしていくかという幅にしたいわけです。そういう意味で、高齢者にフォーカスすることによって、医院としての全体の幅をつくることのできるのではないかなというような意図も、企画の趣旨としては持っています。

内容としては、国立長寿医療研究センターの理事長の荒井秀典先生、フレイルという概念を老年学会で中心になって作ったメンバーの中心だった人ですけれども、この荒井先生に基調講演をお願いし、それから現在のヘルスケア診療所で、実はこれぐらいの高齢者のケアは、診療はどのようなふうに行われているだろうかという実態を今から簡単に調べて、その報告をしていただく。それから次に、今回の会員の中では恐らく最も高齢者の訪問、それから施設への訪問で非常に実績を上げておられる、米子の足立先生にヘルスケア診療所だからできるフレイルの予防ということで、具体的なケースを挙げてお話をさせていただくと。それから全体としてヘルスケア診療における高齢者への対応ということを総括し、ディスカッションするというようなことを今のところイメージしております。

これは高橋先生に報告してもらいたいかもしれませんが、今回から会員の発表に関してはポスターをより充実させたいと。ポスターを発表し、質疑の時間をきちっと設けて、ぜひ20題以上のポスターを展示できるようにしたいというふうに考えております。テーマはヘルスケアにおける高齢者歯科診療というものがメインですけれども、それ以外のカテゴリーも設けて、つまりヘルスケア診療のことなら何でもいいということと、それからヘルスケアの症例報告というものを設けます。それでポスターを充実させようというふうに考えています。

全体としてはオンラインの場合、ポスターをじゃあどうするのか、いろいろ工夫をしなければいけません、そういうような全体として、今回は恐らくハイブリッドでもまだまだオンライン部分を重視しなければならない部分があると思いますので、そういう考えで現在企画しています。以上です。

議長：秋元さん、ありがとうございます。それでは第2号議案、ヘルスケアミーティング2022についてもご発言ございましたが、第2号議案につきまして、特にヘルスケアミーティング2022のほうにつきましても、ご意見とかご質問とかございましたらお願いしたいと思います。

高橋：齋藤先生。

議長：はい。高橋先生ですね。

高橋：僕も今年のヘルスケアミーティングを担当しますので、少し補足をさせてください。

今秋元さんが紹介してくれたとおりではあるんですが、自分も高齢者の多い地域でやっているんで、人生100年という言葉が出てから、人生100年という書籍だったり何か歯科に関することは、目に付けば全部買って目は通しているんですけども、じっくりくるような説明が書いてあるものを見たことはまだありません。特に高齢期の診療、メンテナンスに、ここに1つの選択肢、幾つかの選択肢が示せないかということを考えています。キーワードとしてはやっぱりつなぐということとフレイルです。オーラルフレイルではなくて、フレイルの本丸に切り込みたいなというふうに思っています。なので、日本のトップ、世界のトップである荒井先生を呼びました。

今ここにいる皆さんの中で、フレイルのことをどれぐらい知っている人がいるでしょうか。言葉は知っていると思うんですけども、フレイルは日本の施策として令和3年度に日本全国の50%、受け皿を用意するということが決まっています。令和6年度には、日本全国津々浦々までフレイル対象者の受け皿を用意するというのが、施策として決まってきます。であれば、どうやってつなぐのか。これはヘルスケアの診療室でもできることですし、ヘルスケアの診療室だからできることというのもたくさんあるんですね。1つ例を挙げると、歯科衛生士を中心にメンテナンスを続けているので、特に長い人はその方の元気なところを知っているんです。医科の診療室で1時間、看護師と話をするとかはないんですね。なのでそんな関係性というのはできていないんですよ。なので特にヘルスケアの診療室だからできることとかつなげることというのは結構たくさんあって、そういうところにちょっと焦点を合わせられたらなと思っていますので、皆さんよろし

くお願いします。

議長：高橋先生、ありがとうございました。ただいまのヘルスケア診療室で、元気なころを知っているというのは非常に貴重なご意見だと思います。ありがとうございます。それではほかにご質問とかございますでしょうか。よろしいでしょうか。採決に移ります。会場はまた手挙げですね。ちょっとごちゃごちゃしてすみません。会場はコアメンバー以外は手挙げということでした。

投票はあと1分で締め切るとのことです。あと10秒で締切ということです。はい、締切です。オンライン41名、会場過半数です。(委任の方の決議権は承認に上がりましたので、大多数承認で可決。)では第2号議案はご承認いただきましたということになります。

それでは若干時間が押していますが、第3号議案の学会会員規定の改定につきましては、こちらも田中先生ですね。

田中：はい。これは学会会員規定の改定です。これは10年前に特別学会会員の規定を作った、もうすでに6回ぐらい改定されているんですが、その都度その都度学会会員をお願いする方の利便と、あとどういう趣旨でやるかも考えて改定されております。

今回は学会会員をお願いするようになった依頼事由をきちっと明示し、オピニオンメンバー会議への報告義務を負うことにすると。それから特別学会会員を通称学会会員と呼ぶと。あとは、任期と更新については、以前から任期はあったんですけども、辞退の申し出がない限り自動的に更新するとすると、どんどん増えていっちゃう原因にもなるので、依頼時に2年の任期でお願いし、更新するか否かコア会議で判断し、更新しない場合は退会の扱いとすると。科学顧問については定款上規定がないですが従来どおりとすると。この規定についてはホームページでも学会誌の最後でもありますので、常にご覧いただくことが可能です。定款の下のほうにあります。

その下が今度改定する内容、内容というか改定した文章ですけども、「学会会員について。名称、学会会員は定款第7条2項3の1に定める特別学会会員の通称である。依頼事由、本会から講演、会誌への寄稿、論文の査読、共同研究などを依頼し、お引き受けいただいた方について、引き続き本会のご支援ご協力を期待し、学会会員になっていただくことを申し出ることができる。本人の承諾をもって学会会員となる。任期、学会会員の任期は2年とする」。それから「春季に開催する」、今日のことですね。「オピニオンメンバー会議において、会員数報告に併せて学会会員の新任および継続について報告する」、これは今日改定されれば来年の3月、たぶん3月ですけども報告すると。「学会会員は定款第40条の特別会員の規定により、会費納入義務を負わない」と。以前は「査読あるいは学術的な助力を得るため、推薦があった場合委嘱を決める」だったんですけども、ちょっとそこが詳しくなるんだという部分があると思います。改定の規定ですので、できればこのまま承認いただけたらと思います。

議長：このまま承認いただけたらということですけども、これから質疑に移りますが、

ございましたらお願いいたします。それでは先ほど採決でバタバタしましたけれども、失礼いたしました。第3号議案の採決に移りたいと思います。少々お待ちください。

それでは画面をご覧いただけていると思いますけれども、オンラインの方はこちらに投票していただいて、会場のオピニオンメンバーは承認いただける場合は挙手でお願いいたします。オンラインの方のご投票はあと1分ということです。ただいま締め切っております。オンラインが45名中40ですね。会場は16ということでございます。補足ですけれども、私の場合は議長委任が17ございますので18人分ということになりますけれども、これで承認いただいたということでございます。ありがとうございます。（委任の方の決議権は承認に上がりましたので、大多数承認で可決。）

これではほぼ時間どおりでございますが、その次は第4行議案の報告と意見交換ということでございますが、こちらは高橋先生にお願いしてよろしいでしょうか。

高橋：高橋です。皆さん、普段委員会プロジェクト、フォーラムの活動をありがとうございます。今回も報告を載せてもらっていますので、ぜひ全部読んでください。よろしくお祈りします。今日はその中でも代表的な活動を2つ報告でプレゼンをお願いしています。最初が禁煙支援プロジェクトから高木さん。次がフォーラム学校歯科から上田さんのプレゼンをお願いしたいと思いますので、高木さんお願いします。

議長：ちょっとすみません。高橋先生、高木先生、ちょっとお待ちいただきたいんですけども、杉山先生からご発言ございますので、少々お待ちください。

杉山：すみません。これから報告なんですけれども、午後の2時からこの横浜から神田に移動して、ACFFの会、今の厚労省の小椋さんが講演してくれるということで加わる予定なので中座します。先に食事をさせていただきますので、すみません、失礼いたします。あとよろしくお祈りいたします。すみません。

議長：はい、ありがとうございます。では高橋先生、高木先生、お願いいたします。

——プレゼン省略——

動画参照 URL：<https://youtu.be/6KYnheEELYs>

高橋：高木さん、ありがとうございます。（拍手）1月のセミナーも非常に良かったです。

高木：ありがとうございます。

高橋：もし参加していない方いらして、また次のセミナーがあったらぜひ参加すると思いますので。ちょっと質問、感想などありましたらどなたかと思うんですけども、大井さん、お願いします。

大井：僕ですね。。いきなり、口にポツとおやつを入れていた。

高木：あえて質問はしなくていいです、大井先生（一同笑い）。

大井：高木先生に止められましたので、質問はなしで。今ちょうど昨日、ある患者さんが6年ぶりに来られまして、以前から喫煙をずっと続けていらっしゃった方で、がんになら

れてちょっとその療養とかで、6年という期間が空いて来られたんですけれども、やっぱり喫煙は続いていらっしやいまして。ただ本数が減ったことを、良かったですねと、そこだけは肯定させていただいたんですが。とはいえ、今の高木先生のご報告の中にあつたような、害とメリットの点に関しては、まだまだうまく伝えられていなかったなど、話を聞きながら反省した次第です。これからもよろしく願いいたします。以上です。

高橋：ありがとうございます。続きまして上田さん、お願いします。学校歯科からのプレゼンをお願いします。

——プレゼン省略——

動画参照 URL： <https://youtu.be/6KYnheEELYs> (0 : 18 : 15~)

高橋：上田さん、ありがとうございます。(拍手) 1つぐらい、どなたか感想か質問などありませんか。ないですかね。じゃあ若手の寺岡さん、お願いします。

寺岡：上田先生、ありがとうございます。

上田：ありがとうございます。

寺岡：先日のオンラインサロンでもすごく大盛況で、たくさんの方が参加されていて、Web委員としてもすごく盛り上がっていてうれしかったです。僕自身はそんなに学校歯科というのに携わっていない、積極的に携わっていないので、すごい先生方が熱量を持っていらっしやるということに、大変大きなモチベーションというか、感動しました。

自分のところに、医院に来られている患者さんだけでなく、地域とか学校とかというところに対する社会貢献みたいな側面というのがすごく大きいと思うんですけれども、そこに対するモチベーションの高さというのに、本当に素晴らしい活動をされている方が多いなと思った次第です。今後もいろいろな情報を、知らないことがたくさんありますので、いろいろ発信していただけたら、すごく勉強になりますので、今後もよろしく願いいたします。

僕のスライドも使っていただいて、本当にありがとうございます(笑)。この場を借りて、EBM部会も頑張っているんですけれども、この議事録を見ていたら20人ぐらい載っていたんですが、20人の方々、どこにいったのかなというところなので、ぜひ和気あいあいと楽しく少数精鋭で頑張っていますので(笑)、ご興味のある方とか、ちょっと最近お見かけしない方とかがいらっしやいましたら、ぜひご参加よろしく願いいたします。ということで終わります。

高橋：ありがとうございます。上田さん、ありがとうございます。

上田：ありがとうございます。本当にこの寺岡先生が前回、EBMのときにお話ししてくれた講演も、もうぜひ会員の皆さんに聞いてほしいと思える素晴らしい講演というかお話でしたので、ぜひサロン、Webセミナーを使ってお話ししていただけたらいいなと思うような、本当に素晴らしいお話をしていただけた寺岡先生です。ありがとうございます。

高橋：はい。最後に高橋のほうから1つだけ。この委員会プロジェクトフォーラムを立ち上げるときに、皆さんにお話をしたんですけれども、この活動、メンバーでい続けない

といけないとかはありません。ほかへ移籍したい、参加したいというのも全然ありますし、新しいグループを立ち上げたりというのもあります。今のフォーラムはちょっと一度止めて、ほかを作るとかいうのもありますので。ただ、ぜひとも前向きに皆さんよろしくをお願いします。前向きに。何かあれば丸山先生だったり高橋だったりに言ってもらえたらと思います。また、テーマはそれぞれにあるんですけども、普段の、皆さんさんされていると思うんですけども、ヘルスケア診療室のいろいろな情報交換とか相談も併せてお願いできたらというふうに思います。まだ始まったばかりですので、いろいろないい形を發展させていきたいと思っていますので、皆さんよろしくをお願いします。ありがとうございました。(拍手)

議長：高橋先生、どうもありがとうございました。それではこれで、この第4号議案については……はい、じゃあ大手さん、お願いします。

大手：たびたびすみません、大手です。皆さんありがとうございました。先ほどの委員会プロジェクトフォーラムに関連してなんですけれども、高橋先生のほうからおっしゃった、今後新しいのも積極的に作ってくださいというお話なんですけれども、実は以前、私も丸山先生にこんなのを作りたいんですけどと申し上げたときに、ちょっと集まらなさそうなので、今回見送っておきましょうと指摘いただいたことがありまして。もし新しくチームを作るときに、例えば3人はほしいよとか5人はほしいよとか、目安がありましたら今後やりやすくなると思うので、教えていただければと思うんですけども、いかがでしょうか。

議長：こちら高橋先生、お願いしてもよろしいですか。

高橋：ちょっと丸山先生と相談して、オピニオンのメーリングリストに、今いないのでね。回答するように。

大手：はい、よろしくをお願いします。ありがとうございます。

議長：はい、高橋先生、ありがとうございました。ほかにご質問とかご意見とかございますでしょうか。まだちょっと時間がございます。よろしいでしょうか。こちら、第4号議案は採決はございませんので、こちらで本日のオピニオンメンバー会議は、ほぼ時間どおり終了することができたなと思いますので、私の役目もここで降りたいと思います。バタバタといたしまして申し訳ございませんでした。ありがとうございました。(拍手)

田中：齋藤先生、いつもいつも議長役をありがとうございます。今後ともまたよろしくをお願いします。せっかく大勢参加されて、オピニオンメンバーの方がいらっしゃるの、一言ずつお願いしたいところなんで、ドキッとしないでいいですからね(一同笑い)。したいんですけども、時間が少ないで人数も多いので、本当に申し訳ないんですけども、ぜひ秋のヘルスケアミーティングのときは、リアルで顔を合わせるとあちこちでくっちゃべることができますので、そのときに実際にお顔を合わせられることを楽しみにしておりますので、よろしくをお願いします。

以上